

経営比較分析表（令和2年度決算）

千葉県 神崎町

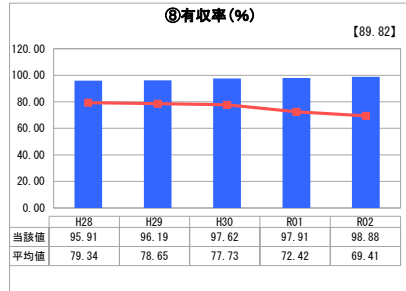
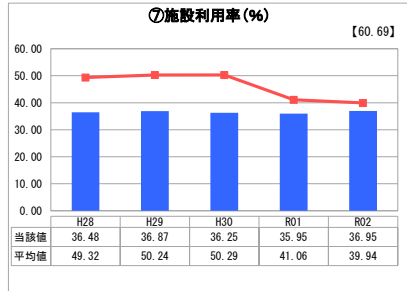
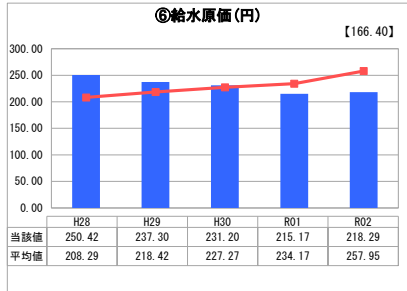
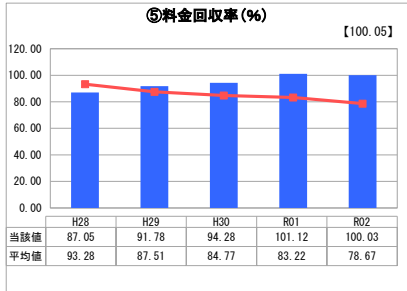
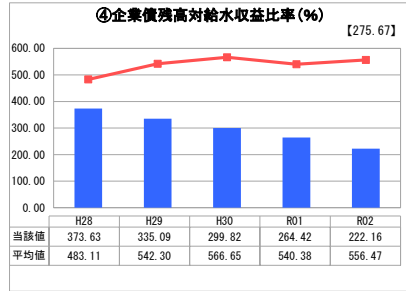
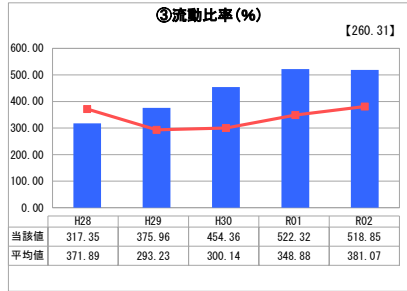
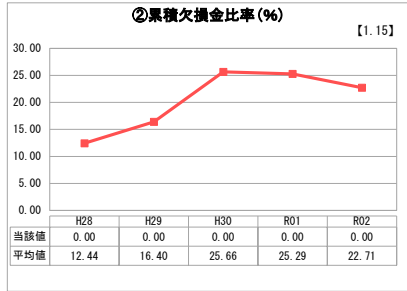
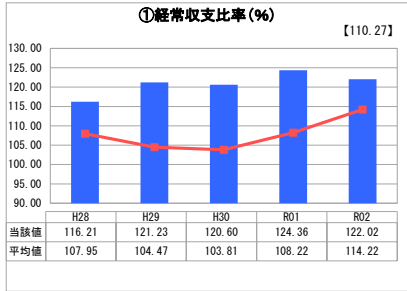
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A9	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり定額料金(円)	
-	88.12	81.38	4,400	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,889	19.90	295.93
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
4,973	22.19	224.11

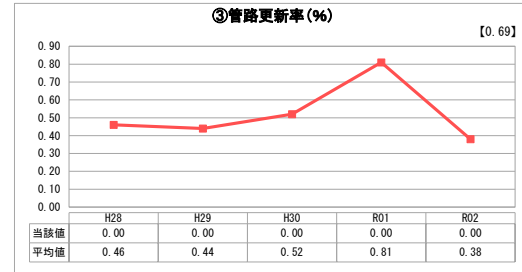
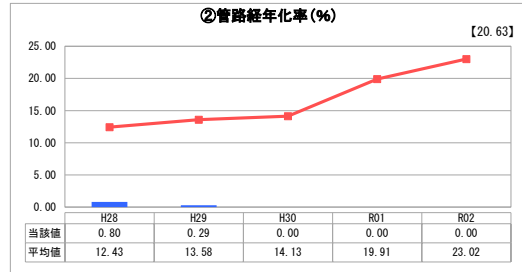
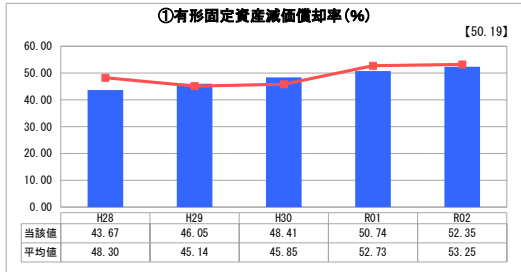
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率について、料金回収率が100%をやや上回っていること、営業外収益である町・県からの高料金対策補助金と長期前受金戻入により高い比率となっている。
なお、給水収益は人口が減少しており横ばいから下降傾向である。事業費用についても、徹底した費用削減による経営改善を実施中であり、これ以上の費用削減は非常に難しい状況である。
累積欠損比率について、平成26年度に東日本大震災により供給不能となった神宿浄水場の固定資産除却費（特別損失）による多額の累積欠損金が発生したが、それ以降発生していない。
流動比率について、平成29年度から増加傾向にあるのは、企業債の新たな借入がなく現金預金が増加しているためである。
企業債残高対給水収益比率は、平成26年度に災害復旧に係る浄水場移転復旧事業のため借入を実施し増加したが、平成27年度から減少している。これは、費用削減のた直営工事等を推進し、借入を抑えて事業再開し企業債残高の増加を抑えているためである。
料金回収率は、平成29年度から職員の若年化による給水原価の減少に伴い100%をやや上回っている。今後、人件費薬品等費用の増加に伴い給水原価が上昇傾向と予想され料金回収率は下がるものと見込まれる。
施設利用率は、水道施設工事が完了した後、当初計画された住宅団地開発が戸数を大きく減らして販売されたため、計画人口と大きな差異が生じており現況では改善することは出来ない。
有収率は、経年管の廃止と配水量の監視を行っているため平均値以上である。

2. 老朽化の状況について

表流水系の第二浄水場は、東日本大震災により建て直したため新しいが、地下水系の古原浄水場は建設後26年を経過しており、修繕により対応している。また、制御盤等については、部品供給停止などにより更新の必要が出てくるため、令和2年度から順次更新を進めている。
管路については、東日本大震災の災害復旧により壊れた経年管の布設替えを実施しており、また平成30年度に老朽管となる石綿管を直営工事により給水切替工事を実施し、石綿管全廃したため、耐用年数を越えた経年管は現在はない。しかし、10年後以降に経年管が増えるため、計画的な更新が必要である。
なお、2つある浄水場は同じ敷地内にあり、地下水系・表流水系の2つの水源を確保し、災害対応出来るようになっている。

全体総括

平成27年4月にオープンした道の駅「発酵の里こうざき」は、施設増設・増床等により売り場を拡大等、客足を増加させるべく営業展開しているが新型コロナウイルス感染症対策の必要不急の外自粛・制限により客数が減少したものとみられ水量が激減している。主体となる生活用水は人口が減少しているが、有収水量は横ばいから微増となっている。新型コロナウイルス感染症対策による外出自粛により家庭での時間が増えたことが要因の一部であると考えられる。
表流水は、利根川から取水し導水ポンプ場で加圧してくみ上げている。加えて、1級河川下流域という地域性もあり水質が良くないため浄水に多くの薬品が必要となり、給水原価を押し上げる状況となっている。また、表流水系浄水場の運転には対応の技能が必要となるが、職員の定年退職が続く中で、技術継承が大きな課題となっている。
近隣市町村と広域化を研究するため、香取市・多古町との勉強会を設置し、今後も経営強化のため実施していく。